

JAPIC NEWS

財団法人 日本医薬情報センター (JAPIC)

2004年11月号 (No.247)

目 次

《巻頭言》		
医薬品の適正使用の推進	植木 明廣 (大阪医薬品協会 理事長)	2
<hr/>		
《 . 知っておきたい薬物療法の新展開 - 》		
抗うつ薬	風祭 元 (帝京大学名誉教授)	5
<hr/>		
《最近の話題》		
改正薬事法施行に向けて	中村 陽子 (JAPIC 理事)	12
<hr/>		
《お知らせ》		
第6回 JAPIC ユーザ会開催のご案内		14
第1回 JASDI フォーラム開催のご案内		16
「医薬品類似名称検索システム」付加情報有料化のお知らせ		17
「構造式集 2005」発刊のお知らせ		18
「医療薬日本医薬品集 2005」(第28版)「日本医薬品集 DB 2004年10月版」のお知らせ		19
「JAPIC HP リニューアル」他お知らせ		20
《トピックス》 「iyakuSearch」登録方法 / JDM 検索システムのご案内		21
《図書館だより No.173》		26
《月間の動き》		29
《10月の情報提供一覧》		30

《巻頭言》



「医薬品の適正使用の推進」

大阪医薬品協会 理事長

植木 明廣 (*Ueki Akihiro*)

(JAPIC 評議員)

医薬関係者の究極の目標は患者本位の医療の実現にあると考えられる。(図1)
また、その実現には医薬品の適正使用が医療の現場で実践されることが大前提である。ところが、この“医薬品の適正使用”は言うは易し、行うは難しである。

適正使用のサイクル

医師の処方に基づき、薬剤師が調剤した薬剤について患者が十分理解し、納得した上で正確に使用することが大切である。更に薬剤の効果や副作用などが十分に評価され、処方にフィードバックされてはじめて適正使用のサイクルが有効に機能する。(図2)

医薬品の適正使用のサイクルが円滑に機能するためには、薬剤師の十分な服薬説明と患者のインフォームドコンセント(十分な理解と同意)が不可欠とされ、その推進が強く叫ばれて久しい。

医薬品の適正使用推進方策の進展

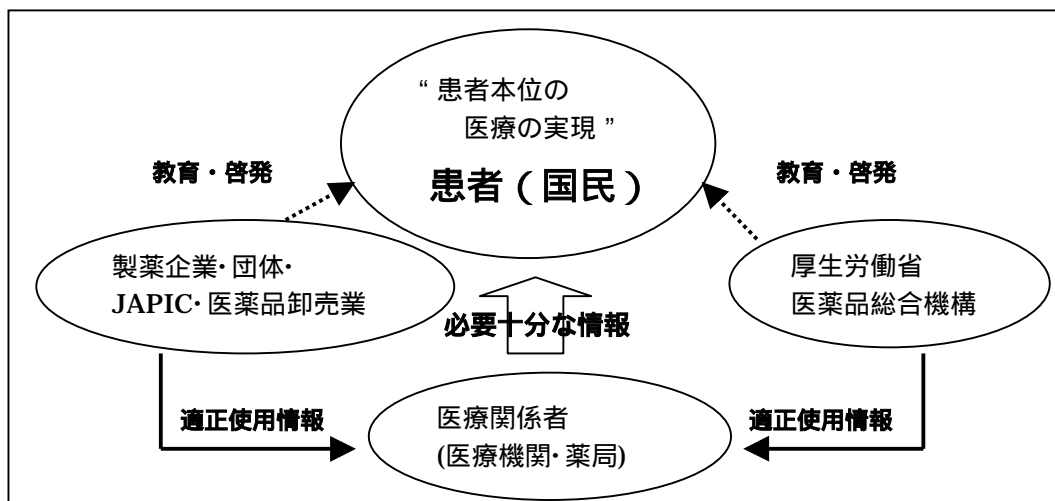
そのため、厚生労働省では、医薬品の適正使用を推進するため様々な推進方策を執ってきた。(図3)

それらの進展を一つひとつ見ていくと、

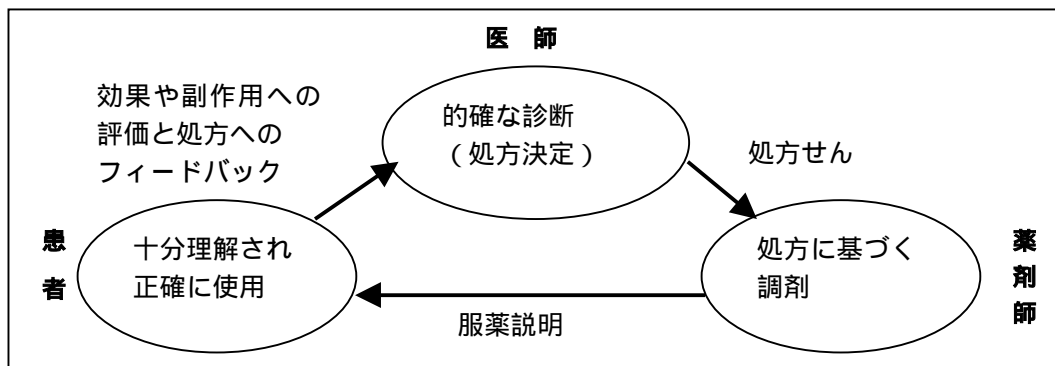
- (1) 医薬分業については、今や分業率 50%の大台を超え、
- (2) 薬剤師の病棟業務も質的量的にまだ十分とは言えないがある程度進展し、
- (3) 心ある医師は、インフォームドコンセントに時間を割き、
- (4) 過大な薬価差は縮小し、
- (5) MR も試験制度の普及・定着で資質の向上が図られ、
- (6) 改正薬事法では、製造販売業の許可基準(新法第 12 条の 2)として、製造販売後安全管理基準(GVP)が規定され、より厳しく企業責任が問われ、
- (7) 薬学教育においては、医療薬学が重視され、
- (8) 薬剤師教育は 6 年制がよいよスタートする。等々

今まで推進方策として考えられていたものについては、各々それ相応の進展が見られるようになってきたものの、果たしてあらゆる医療の現場で医薬品の適正使用が的確に実践されているであろうか。

(図 1)



(図 2)



(図 3)

- 医薬品の適正使用の推進方策
- 医薬分業の推進
 - 病院薬剤師の病棟業務
 - インフォームド・コンセントの普及
 - 過大な薬価差の縮小
 - MRの資質向上
 - 市販後調査(PMS)の充実
 - 医学教育における処方学と薬学教育における医療薬学
 - 薬剤師の資質向上

遅々として歩まず！

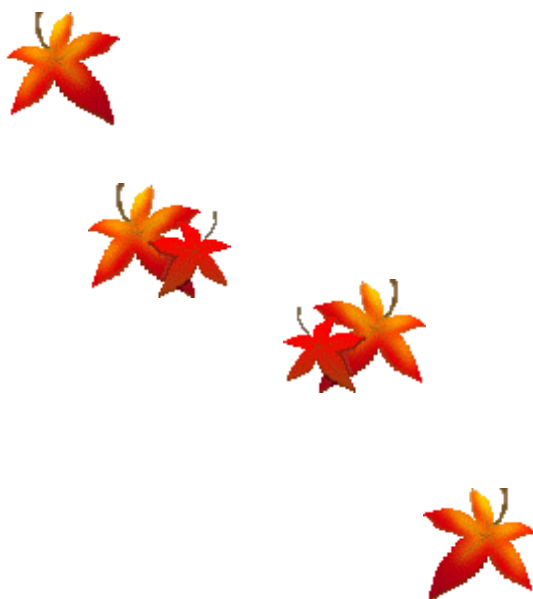
知人などの数少ない受診経験をみても、「薬剤（くすり）の適応に鑑み、正しい処方がなされているか？」、「院外処方せんに基づいて調剤した門前薬局の薬剤師は患者の質問に適切に受け答えしているか？」など、適正使用の歯車がうまくかみ合っているか疑問に感じる事例に多々遭遇している。これだけ多くの医薬・医療の関係者が今日まで血の滲むような思いをして推進してきたにもかかわらず“医薬品の適正使用”は遅々として歩まず！が私の実感である。

連携と協力

医薬品の適正使用という課題について、第一義的には患者を目の前にした医師や薬剤師の責任と果たす役割が大きい。病院で医師や薬剤師が連携して治療にあたるチーム医療の重要性が求められている中、医師の良きパートナーとして薬剤師がすべての薬剤使用により深く関与できる体制を一刻も早く整える必要がある。

また、これからの時代は、連携と協力の時代であると思っている。適正使用に果たす団体の役割りは少ないかも知れないが、団体間、団体と行政（国、地方）など、あらゆる連携と協力を視野に入れて医薬品の適正使用に取り組んでいきたい。

医薬品の適正使用の推進にあたっては、医療界、薬業界全体の共通の大きい課題であることに鑑み、JAPICの新たな事業展開に期待するところは大きい。



抗 う つ 薬

帝京大学名誉教授

風 祭 元 (Kazamatsuri Hajime)

1．はじめに

抗うつ薬とは「抑うつ状態」を改善する薬である。抑うつ depression とは、精神的に、気分がゆううつ、物事がおっくう、不安でいらいらする、などの症状と、よく眠れない、食欲や性欲が減退する、疲れやすい、などの身体症状を示す状態である。この状態は不愉快なことや悲しいことなどの心理社会的な原因があれば誰にでも起こり得るが、普通は時がたつにつれて回復するものである。うつ状態が長く続き、そのために日常の社会生活が障害される場合が「うつ病」で、医療の対象となる。うつ病の症状は基本的には気分の異常なので、「気分障害」または「感情障害」とも呼ばれる。うつ病には気分の周期的な変動の振幅が異常に大きい「躁うつ病、双極性気分障害」の一部である場合と、抑うつ気分だけがみられる「単極性うつ病」の場合があるが、治療法には両者の間に特に大きな違いはない。

わが国では近年自殺者数が1年に全国で3万人を超え、大きな社会的問題となっているが、自殺の大部分はうつ病によると考えられており、早期の医療的介入によって、うつ病の悪化や自殺を予防することができる。

うつ病が発病する時には、きっかけとなるような環境上のストレス状況が存在することが多いので、うつ病に対して薬などを用いる意味がないと一般には考えられがちであるが、心理・社会的問題は発病の契機にはなっても、いったんうつ状態になると、脳内に一定の物質的变化が起こるので、うつ病は環境の調整や精神療法だけでは回復せず、抗うつ薬による薬物療法が是非必要である。ここでは、主な抗うつ薬の種類、効果と副作用、診断と治療のガイドラインなどについて述べる。

2．うつ病の病態生理と抗うつ薬の薬理

うつ病の発病にはさまざまな要因が関与するが、原因はともあれひとたびうつ状態が起こると、脳の中の神経伝導物質である各種のモノアミンの機能が低下することが知られている。脳内モノアミンには、ノルアドレナリン、ドーパミン、セロトニンなどのさまざまな種類があり、どのアミンの障害がうつ状態の際に主役を演じるかについてはいろいろな説があるが、現在用いられている抗うつ薬は、いずれも脳内アミンやその受容体にさまざまな作用があり、その作用を目標として開発され、臨床的效果を上げている。

3. 抗うつ薬の種類

中枢神経系に作用する薬を「精神神経用剤」と称するが、そのうち、精神症状の治療を主な目的とする薬剤を「向精神薬」とよび、表1のように分けられる。

現在わが国で用いられている主な抗うつ薬を表2に示した。

表1. 向精神薬の分類

- | |
|----------|
| 1. 抗精神病薬 |
| 2. 抗うつ薬 |
| 3. 抗不安薬 |
| 4. 抗躁薬 |
| 5. 睡眠薬 |
| 6. 中枢刺激薬 |

表2. わが国で市販されている主な抗うつ薬

分類	一般名	主要商品名	1日量 (mg)
三環系	イミプラミン	トフラニール、イミドール	25 ~ 200
	クロミプラミン	アナフラニール	50 ~ 225
	トリミプラミン	スルモンチール	50 ~ 300
	ロフェプラミン	アンプリット	25 ~ 150
	アミトリプチリン	トリプタノール	30 ~ 150
	ノルトリプチリン	ノリトレン	25 ~ 150
	アモキサピン	アモキサン	25 ~ 150
	ドスレピン	プロチアデン	75 ~ 150
	トラゾドン	デジレル、レスリン	75 ~ 200
	四環系	マプロチリン	ルジオミール
ミアンセリン		テトラミド	30 ~ 60
セチプチリン		テシプール	3 ~ 6
SSRI	フルボキサミン	デプロメール、ルボックス	50 ~ 150
	パロキセチン	パキシル	10 ~ 40
SNRI	ミルナシبران	トレドミン	50 ~ 100
その他	炭酸リチウム*	リーマス	400 ~ 800
	バルプロ酸*	デパケン、バレリン	400 ~ 1,200

[* : 躁うつ病 (双極性気分障害) のうつ状態に有効]

抗うつ薬は、大別して

1. 三環系抗うつ薬とその類縁化合物 2. SSRI 及び SNRI 3. 気分安定薬に分けられる。三環系抗うつ薬は、イミプラミンのようにベンゼン核が3個つながった化学構造を特徴とし(類似した二環系や四環系もある)、全世界で1960年ごろから広く用いられて

いる。三環系抗うつ薬は、抗うつ作用はかなり強いが、効果の発現までに1週間程度かかる、眠気や抗コリン性の副作用（口の渇き、尿が出にくくなる、便秘、頻脈など）が多い、といった特徴がある。それぞれの薬で、速効性や副作用に特徴があり、それに応じて使い分けられる。クロミプラミンのように点滴静注できるものもある。

この数年来、広く用いられるようになったものに SSRI(Selective Serotonin Reuptake Inhibitor、選択的セロトニン再取り込み阻害剤)と SNRI (Serotonin-noradrenalin Reuptake Inhibitor、セロトニン ノルアドレナリン再取り込み阻害剤)がある。これらは新規抗うつ薬とも呼ばれ、三環系抗うつ薬のような抗コリン性の副作用が少ないので、患者さんの服薬中断が少ないので、現在広く用いられるようになっている。しかし、抗うつ作用はそれほど強くはないので、外来の軽症ないし中等症のうつ病に主として用いられ、自殺の心配があって入院が必要なような比較的重いうつ病には、従来の三環系抗うつ剤が広く使われている。

その他に、炭酸リチウム、バルプロ酸、クロナゼパムなどの、これまで「気分安定薬」と呼ばれて、躁状態に有効であることが知られていた薬が、双極性気分障害(躁うつ病)のうつ状態の予防や治療に効果があり、また、三環系抗うつ薬や新規抗うつ薬の効果が不十分な場合に追加して用いると有効なことがあるので、既往に躁状態のない単極性のうつ病にも用いられる。

これらの薬剤の薬理作用を簡単に説明するのは難しいが、いずれも脳内のモノアミンの受容体などに作用して、そのはたらきを調整することによって抗うつ作用を示すことが知られている。

4．抗うつ薬使用の原則

抗うつ薬の使用にあたっては次のようなことに注意する。

1. うつ状態と診断されたら、通常は少量から服用を開始し、副作用について注意しながら適量まで漸増し、その量を続ける。
2. うつ状態の発生には、家庭や職場での心配など、環境的なストレスとなる各種の要因が影響することも多いので、治療者は共感する気持で患者さんの訴えをよく聞く。これらの環境的要因は、医師はどうすることも出来ないことも少なくないが、どのように対処してよいか、専門的な立場から助言する。
3. 抗うつ薬を漸増して、症状がある程度良くなってきたら、一定期間その量を続け、徐々に減量する。環境的な要因が解決されない時は、出来れば少量の服用を続け、生活上の助言を行う。抗うつ薬の減量や中止は勝手に行わずに、必ず医師と相談の上で行う。
4. 不眠、不安、便秘などの合併する精神・身体症状には、睡眠薬、抗不安薬、緩下剤などを適宜併用する。

うつ病の治療は、単に抗うつ薬を投与して足りるわけではなく、医師が患者さんに時間をかけて面接し、うつ病で時に起こる自殺を予防するなど、診察と処方にあたって医師にきめ細かい配慮が必要とされる。

5．うつ病診断のガイドライン

以前は、うつ状態は「躁うつ病」という精神病の一つの病相と考えられていたが、現代の社

会の複雑化に伴って、さまざまな要因がうつ状態の発生に関与し、いろいろなタイプのうつ状態が見られることが分かってきた。公衆衛生の見地や、抗うつ薬の開発などのために、うつ病の診断に際して、共通の診断基準が必要になってきた。

最初の試みは、アメリカ精神医学会(APA)の DSM-3.(精神疾患の診断と統計マニュアル、現在は改訂されて DSM-4.)である。また、世界保健機構(WHO)も、すべての病気の統計や分類のために、ICD-10(国際診断基準第 10 版)という基準を作っており、わが国の内閣統計局や厚生労働省もこれを採用している。ICD-10 は病気を大きく 20 のカテゴリ - に分けているが、その第 V 章が「精神および行動の障害」で、この章は更に 10 に分けられ、その 3 番目(F3)が気分(感情)障害でうつ病はこの中に含まれる。

F3 は表 3 に示すように (F30-F39) の 10 項に分かれている。この診断基準は、あらゆる患者さんが必ずどれかの項目に入るようになっているので分かりにくいのが、F31 が従来の躁うつ病にほぼ相当し、F32 うつ病エピソードの項の記述が、典型的なうつ病の診断の基準で、これが反復されると、F33 の反復性うつ病性障害になると考えると分かりやすい。

うつ状態では、

1. 抑うつ気分 2. 興味と喜びの喪失 3. 活動性の減少と疲労感の増大、が大きな症状の特徴であるが、この他に a. 集中力と注意力の減退 b. 自己評価と自信の低下 c. 罪責感と無価値感 d. 将来への悲観的な見方 e. 自傷/自殺観念や行為 f. 睡眠障害 g. 食欲不振などがしばしばみられる。このような症状がある時は、うつ状態と診断できる。

表 3 : 気分障害 (感情障害) の分類 [ICD-10]

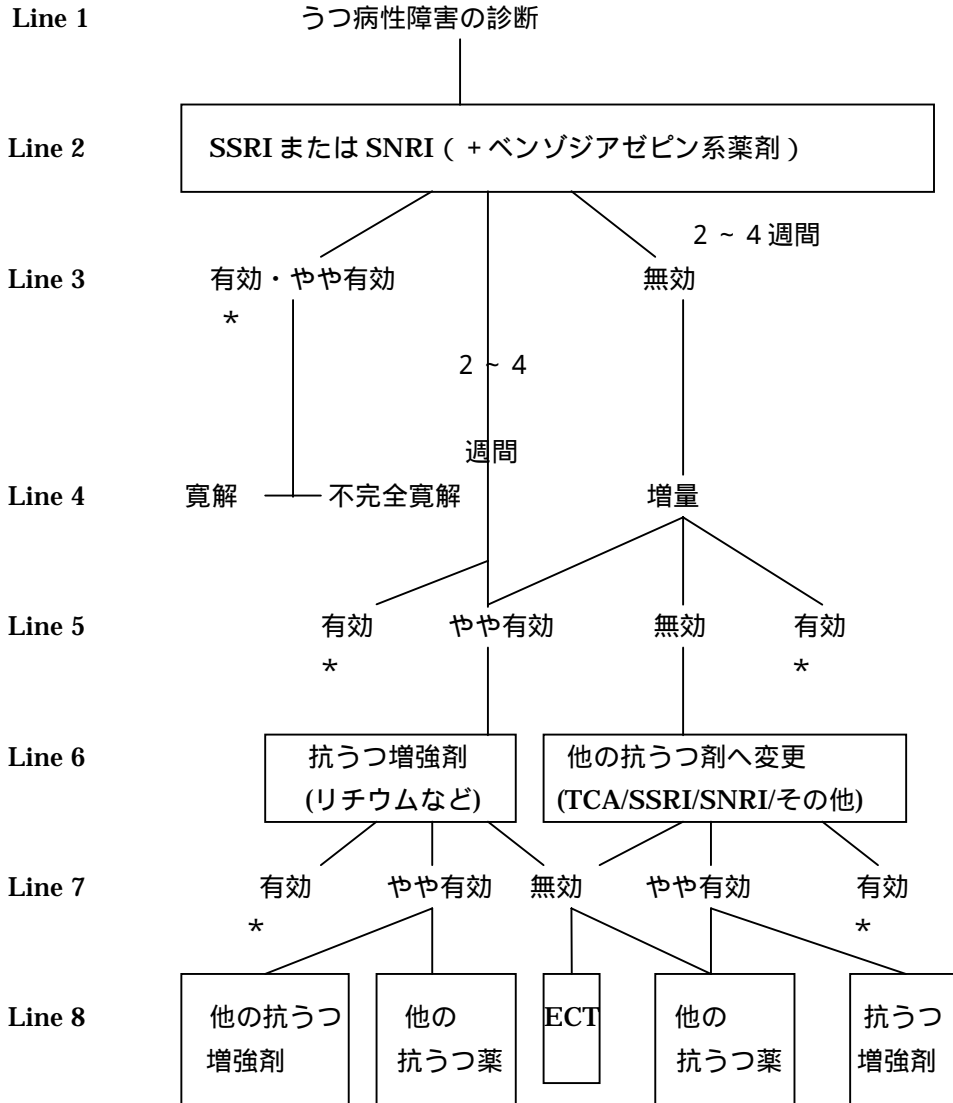
F 30 : 躁病エピソード
F 31 : 双極性気分障害 (躁うつ病)
F 32 : うつ病エピソード
F 33 : 反復性うつ病性障害
F 34 : 持続性気分 (感情) 障害
F 38 : 他の気分 (感情) 障害
F 39 : その他・特定不能の気分 (感情) 障害

6 . 抗うつ薬治療のガイドライン

最近、さまざまな薬の使い方をそれまでの研究によって実証されたデータに基づいて標準化されたガイドラインが作られている。これは、症状や薬への反応によってどのような薬や治療法を選んだらよいかというフローチャート (アルゴリズム) の形で示される。

抗うつ薬については、アメリカ精神医学会(APA)から、うつ病や双極性障害(躁うつ病)の治療アルゴリズムが発表され、邦訳されているが、わが国では、精神科薬物療法研究会から「気分障害の薬物治療アルゴリズム」が発表されている。これは対象が 1.軽症・中等症のうつ病、2.重症うつ病 3.双極性障害(躁うつ病)などに分かれているので、ここでは表 4 に示す「うつ病・(中等症)治療のアルゴリズム」について解説する。

表4. うつ病(中等症)治療のアルゴリズム(一部省略)



*: 有効と判定した場合にはその治療を継続する。

TCA: 三環系抗うつ薬

SSRI: 選択的セロトニン再取り込み阻害薬

SNRI: セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬

ECT: 電気けいれん療法

うつ病と診断したら、第1選択はSSRIまたはSNRIで、必要に応じてベンゾジアゼピン系(BZD)の抗不安薬を併用する。2~4週間連用して有効・やや有効なら継続し、無効の時は増量し、それでも無効の時は、リチウムなどの抗うつ効果増強薬や3環系抗うつ薬に変更し、薬物に反応しない時は、ECT(電気けいれん療法)を考慮するというものである。

重症の場合や精神病性(妄想などを伴う)の場合には第1選択に3環系抗うつ薬やECTも選ばれる。現在の抗うつ薬の治療の中心はSSRIやSNRIなどのいわゆる新規抗うつ薬であることが分かる。以前に広く用いられた三環系の抗うつ薬は、抗コリン性の副作用が強いので、大量に用いる場合には、入院治療を行って十分な精神療法と身体的ケアのもとに用いられるようになっていく。

わが国で処方できるSSRIは、フルボキサミンとパロキセチンの2種、SNRIはミルナシブランのみである。これらの薬は、薬理作用の上でそれぞれの特徴があるが、臨床的効果にはかなりの個人差があり、個々の患者さんについてうまく使い分けるには至っていない。

7. 抗うつ薬の副作用

1) 三環系抗うつ薬の副作用

◆ 中枢作用

服用の初期に眠気を訴えることが多い。これはアドレナリン β_1 受容体やヒスタミン H_1 受容体遮断作用によると考えられている。またレム睡眠を増加させる作用が多いので、悪夢が多くなることもある。

◆ 抗コリン性副作用

三環系薬剤には、末梢のアセチルコリン受容体遮断作用があるので、その結果、口の渇き、眼のかすみ、便秘、排尿障害などが起こることがある。うつ状態の患者さんは、これらの症状をとりわけ苦痛に感じて過剰に訴えることが多いので、医師はこれらが抗うつ作用に伴うものであることをよく説明し、対症療法を十分に行い、抗うつ薬を出来るだけ中断しないよう配慮する。

◆ 心循環系の副作用

頻脈、心電図異常(QRS間隔の延長、STの変化など)がある。抗アドレナリン β_1 遮断作用、抗コリン作用などによる。このため、自殺などの目的の大量服薬では、血圧低下や不整脈などの中毒症状が起こる。

◆ 離脱症候群

突然に多量の服薬を中断すると、食欲不振、嘔気、腹痛、下痢などの胃腸症状が見られることが多い。睡眠障害も起こりやすい。

◆ 躁転

双極性気分障害のうつ状態の患者が軽躁状態から躁状態を誘発することがある。しばしばうつ状態の改善と区別しにくいので、既往に躁状態のあるものには注意が必要である。

2) 新規抗うつ薬の副作用

◆ 消化器系副作用

食欲不振、悪心、嘔吐などが多い。ヒスタミン受容体遮断が関係すると考えられている。

◆ セロトニン症候群

SSRI、SNRI など、セロトニン取り込み阻害作用の強い抗うつ薬が多い。興奮、ミオクロ-ヌス、発汗、悪寒、発熱などの症状が急激に起こり、時にはけいれんや意識障害を引き起こすことがある。稀ではあるが注意が必要である。

8 . おわりに

うつ病は、うつ状態という精神症状が基盤にある病気であるが、しばしば、疲労、食欲や性欲の低下、頭痛、不眠、めまいなど、さまざまな身体症状を前景として家庭医や内科医を受診することが多い。内科を新しく受診する患者さんの 10% がうつ病であったという統計もある。理由はさまざまであっても、ひとたびうつ状態が起こると、脳の中には物質の変化が起こり、各種の抗うつ薬が有効である。最近の抗うつ薬は SSRI や SNRI などの新規抗うつ薬が主として用いられるようになっており、これまで用いられてきた三環系抗うつ薬に較べて副作用が少なく、精神科を専門としない医師にも使いやすくなっている。



《最近の話題》

改正薬事法施行に向けて

中村 陽子 (Nakamura Yoko)
(JAPIC 理事)

改正薬事法の来年4月1日施行に向けて、9月22日に製造販売業の許可要件となるGVP省令や、GQP省令などが制定された。日本製薬団体連合会の安全性委員会及びGMP委員会主催の厚生労働省による「製造販売業・GVP・GQPに関する説明会」が、9月27日大阪、9月30日東京、10月14日富山で、相次いで開催されている。この説明会の内容については、日薬連と厚生労働省のご了解を得て、「JAPIC J No.2」(11月中旬発行予定) <p15参照>でご紹介する予定であるが、本誌においても、薬事法改正で何が変わるのかを、簡単にお伝えしたい。

改正薬事法の施行

平成14年7月31日に改正薬事法が公布された。多くの改正は既に段階的に施行されているが、承認・許可制度の見直しに係る部分の改正点が平成17年4月1日から施行される。

平成16年7月9日付けで、製造販売業の許可申請方法、製造販売業者の遵守事項、総括製造販売責任者等の設置要件等について施行規則が告示された。また、9月22日付けで製造販売品質保証基準や製造販売後安全基準が告示されている。今回の説明会では、9月22日に告示された規則についての説明が行われている。

改正薬事法の要点：“製造販売業”の登場

許認可制度見直しで、変わった点を整理してみる。

大きく変わったのは、薬事法第4章であるが、目次が「(旧)医薬品等の製造業及び輸入販売業」から、「(新)医薬品等の製造販売業及び製造業」となり、「輸入販売業」がなくなった。薬事法の改正なので、誤解を避けるためにご説明するが、輸入販売行為そのものがなくなったわけではない。国内の規制対象から「(旧)製造業」と「輸入販売業」が消え、新しく「製造販売業」と「製造業」という規制対象行為が登場することとなった。

厚生労働省によると、改正の方向性は 企業の市場に対する責任の明確化を図る、市販に着目して承認・許可が与えられている欧米との整合性を図る、製造販売元売業に対する許認可制度を導入することにより、製造工程に係るアウトソーシングを自由化する、市販後安全対策部門を充実強化するとともに、市販後安全対策業務の委受託可能範囲を明確にすることであると、説明されている。

市場責任の明確化という点で法体系を見た場合に、製造・輸入の許可が取れば製造・輸入ができ、自由に出荷できるという改正前の場合と、品質保証・市販後安全対策等の基準を満たさなければ製造販売業の許可が取れずに出荷できないとなる改正後の場合とでは、明らかに異なっていることを、規則や通知などから理解する必要がある。図1, 2

薬事法の許可要件

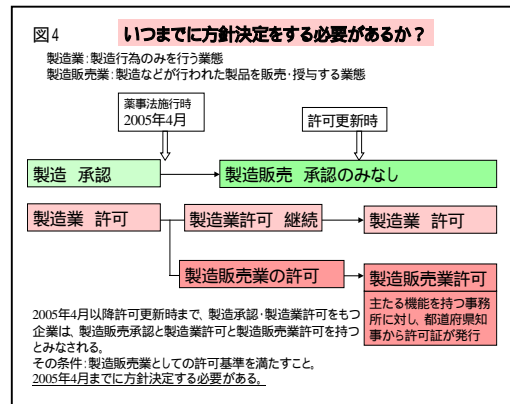
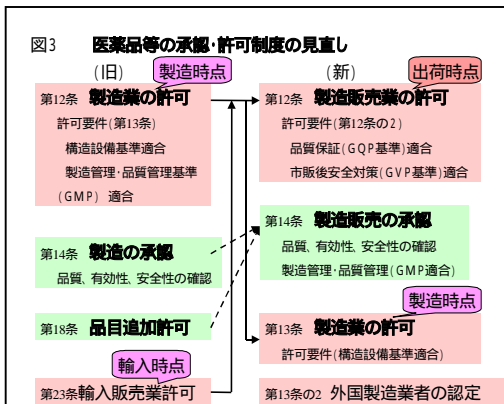
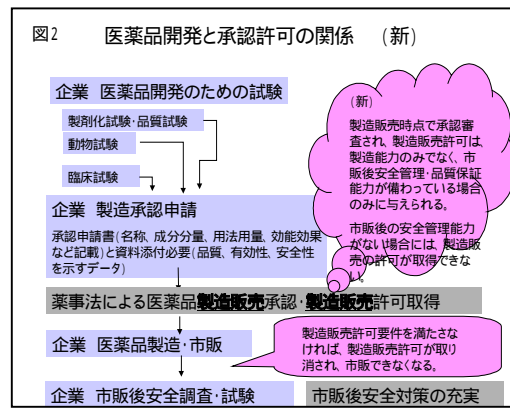
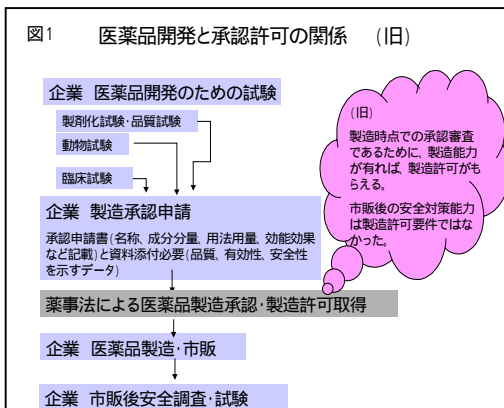
製造販売業の許可を得るためには、GQP（製造販売品質保証基準）と GVP（製造販売後安全基準）を順守できる体制であることが条件になっている。 図 3

さらに、製品の品質管理と市販後の安全管理が共に適正に行われるために、品質保証責任者と安全管理責任者の上に、「総括製造販売責任者」を設置し、適正に製造販売行為が行われていることを確保するために努力する等の条件を守らなければならない。

この「総括製造販売責任者」「安全管理責任者」「品質保証責任者」は、製造販売業の「三役」と呼ばれ、“上市”“出荷”していかどうかの判定を行っていくこととなる。

9月22日に告示されたのは、GQP、GVP という許可要件に関する具体的な基準であり、市販後の安全対策業務の委託に関する規則である。これまで出された告示や通知に基づいて、来年4月以降、「製造販売業」としての業務組織体制に移行する必要がある。 図 4

医療関係者や患者に対して責任を持てる医薬品 製品、医薬品情報（サービス）を提供し、また、社内において情報を活用するためにも、品質管理と安全管理に関連した薬事法規制の動きを見ておく必要がある。



お知らせ

「第6回 JAPIC ユーザ会」開催のご案内

平成16年度第2回目の「JAPIC ユーザ会」を下記の要領で開催いたします。

今回、JAPIC 側からは、10月1日に公開いたしました「iyakuSearch」について利用方法、検索の具体例を示しご紹介させていただきます。また、会員の皆様の中から「iyakuSearch」活用事例、及び JAPIC の各種サービスについての「JAPIC 情報活用事例」発表をお願いいたしました。また、特別講演として大阪会場では、武庫川女子大学薬学部 教授 松山賢治先生「臨床マインドから開発する薬」、東京会場では市立吹田市民病院 薬剤部 藤原豊博先生「医療用医薬品の適応外使用と研究開発について」を話していただきます。

なお、ユーザ会終了後、簡単な懇親会も準備させていただきます。特別講演および事例発表の講師先生をはじめ JAPIC 役職員、参加者同士の情報交流の場にお使いいただけましたら幸いです。多数のご出席をお待ち申し上げます。

日時・会場：

大阪 11月26日(金) 13:30～17:10 大阪商工会議所 502号会議室 ; 06-6944-6268

17:10～18:30 6F/ニューコクサイにおいて懇親会

最寄駅 地下鉄堺筋線・堺筋本町駅より徒歩8分 / 地下鉄谷町線・谷町4丁目駅より徒歩8分

(〒540-0029 大阪市中央区本町橋2番8号)

東京 12月3日(金) 13:30～17:10 長井記念館ホール ; 03-3406-3326

17:10～18:30 同 ロビーにおいて懇親会

最寄り駅 JR 渋谷駅東口から首都高速道路3号線沿いに徒歩8分(〒150-0002 渋谷区渋谷2-12-15)

プログラム：

<大阪会場> 平成16年11月26日(金)

13:00～ : 受付開始

13:30～13:40 : 主催者挨拶

13:40～14:20 : 「iyakuSearch」のご紹介 (JAPIC 担当者)

14:20～14:50 : 「iyakuSearch の活用事例 - 薬剤師の立場から」

(武庫川女子大学 臨床薬学教育センター：西方真弓先生)

14:50～15:20 : 「JAPIC 情報活用事例 - ジェネリックメーカーの立場から」

(沢井製薬株式会社 医薬情報部：浅田英文氏)

15:20～15:30 : 質疑応答

15:30～15:50 : 休憩/コーヒータイム

15:50～16:50 : 特別講演「臨床マインドから開発する薬」

(武庫川女子大学薬学部教授 臨床薬学講座：松山賢治先生)

16:50～17:10 : 全体の質疑応答

- 17:10～18:30 : 懇親会
<東京会場> 平成 16 年 12 月 3 日 (金)
13:00～ : 受付開始
13:30～13:40 : 主催者挨拶
13:40～14:20 : 「iyakuSearch」のご紹介 (JAPIC 担当者)
14:20～14:50 : 「JAPIC 情報活用事例 - iyakuSearch を主として」
(鳥居薬品株式会社 学術情報部 : 西内 史氏)
14:50～15:20 : 「万有製薬における JAPIC サービスの活用事例 - 文献・学会情報の収集」
(万有製薬株式会社 臨床医薬研究所 安全性情報部 : 塩川俊幸氏)
15:20～15:30 : 質疑応答
15:30～15:50 : 休憩 / コーヒータイム
15:50～16:50 : 特別講演「医療用医薬品の適応外使用と研究開発について」
(市立吹田市民病院 薬剤部 : 藤原豊博先生)
16:50～17:10 : 全体の質疑応答
17:10～18:30 : 懇親会

参加費 : 無料

申込方法・期限 : 11 月 19 日までに会社名、所属、参加者名、連絡先をご記入の上
メール返信 (gyoumu@qb3.so-net.ne.jp) または Fax (03-5466-1814) 送信
をお願いいたします。申込書はホームページに掲載しております。

問合せ : 事務局 業務担当 (; 03-5466-1812)

「*JAPIC J*」 ジャビックジャーナル No.2 発行のお知らせ

11 月中旬に第 2 号を発行する予定であります。5 月に創刊号を発刊いたしましたところ、思いがけず多くの会員の皆様からお問い合わせをいただきました。情報過多で刊行物の多い時代にあつての発刊であります。医薬品情報に関する学術資料的に価値の高いまとめた内容として意義のある冊子を目指しています。

第 2 号では「平成 16 年度薬価制度改革について」、「改正薬事法と GVP について」、「抗がん剤の併用療法に関する話題」など薬事関連のタイムリーな話題や、「ホームページで海外医薬品の製品情報を探す方法」など知っておくと役立つ情報を掲載いたしますのでどうぞ活用下さい。

本誌は JAPIC 会員機関、関連団体等に無料でお送りいたします。

(事務局業務担当 TEL.03-5466-1812)

平成 16 年度第 1 回 JASDI フォーラム開催のご案内

「21 世紀のくすりの研究開発と医薬品情報」

このたび日本薬品情報学会と共催で第 1 回フォーラムを開催いたします。
JAPIC 会員は参加費が割引となっております。
多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

主 催：日本医薬品情報学会 / 共 催：(財)日本医薬情報センター

日 時：平成 16 年 12 月 14 日(火) 13:00 ~ : 17:00

場 所：日本薬学会館長井記念館 長井記念ホール

(東京都渋谷区渋谷 2-12-15 TEL:03-3406-3326)

会場地図は JASDI ホームページを参照してください。(<http://www.jasdi.jp>)

13:00 ~ 13:10	1. はじめに 日本医薬品情報学会 会長	山崎 幹夫
13:10 ~ 14:00	2. 講演 これからの薬物相互作用を考える - ファーマコゲノミクスからの視点 - 東京工業大学大学院生命理工学研究所	石川 智久
14:00 ~ 14:50	くすりの研究開発と個人情報 国立医薬品食品衛生研究所	増井 徹
14:50 ~ 15:10	休憩	
15:10 ~ 16:00	市販後情報からの育薬 福井大学医学部附属病院薬剤部	政田 幹夫
16:00 ~ 16:50	ゲノム創薬の光と陰 日経BP社先端技術情報センター	宮田 満
17:00 ~	懇親会(無料) 日本薬学会館長井記念館 長井記念ホールロビー	

申込方法 : 氏名、所属、連絡先(住所、TEL、FAX、E-mail)を
e-mail : jasdi-forum1@jasdi.jp宛てに送信してください。
複数名の場合も個別にお申し込みください。

定 員 : 150 名

申込締切 : 平成 16 年 12 月 9 日(木)

参加費 : 日本医薬品情報学会、(財)日本医薬情報センター
会員 3,000 円 非会員 5,000 円

* 当日会場でお支払い下さい。

(事務局業務担当 TEL.03-5466-1812)

医薬品類似名称検索システム 付加情報有料化のお知らせ

昨年、「医薬品類似名称検索システム」のパイロットスタディを行い、多くの製薬企業からお申し込みと、アンケートにご協力いただき誠にありがとうございました。

パイロットスタディ終了後も「医薬品の安全上問題となる品名」、「承認申請予定の品名」等に限って、パイロットスタディと同じ検索サービスを無料で継続提供しておりました。お申し込みを継続的にいただいていることから、このたび現行サービスを維持するため、JAPIC 作成付加情報分として実費程度の負担をお願いすることと致しました。

つきましては来る平成 16 年 11 月 1 日から、現サービスを暫定的に下記料金にてご提供させて頂きたいと存じます。

十分なサービスの維持、管理に努めるためにも本サービスの有料化につきましては、皆様よろしくご理解の程お願い申し上げます。

- 記 -

【検索方法及び料金】

〔期間〕平成 16 年 11 月 1 日から平成 17 年 3 月 31 日まで

〔お申し込み方法〕申込書に必要事項をご記入の上、下記担当まで FAX 又は e-mail にてお申し込み下さい。JAPIC にて検索後、結果一覧をお返しいたします。

なお、JAPIC は利用に関わる全ての情報を厳格な秘密保持のもとに取扱います。

〔検索結果データ〕類似度指標の数値と各名称についての付加情報（製品名、規格、製造会社、一般名等一覧）とからなっています。結果は電子メールにて送信いたします。

〔料金〕: 全て税込み

（申込 1 件当たり。なお、申込 1 件につき、名称は 3 つまでお受けいたします）

JAPIC 会員	A 会員	10,500 円 / 件
	B・C 会員	31,500 円 / 件
JAPIC 非会員		52,500 円 / 件

注) ご利用は製薬企業を対象としております。

〔お申し込み用紙〕 JAPIC ホームページからダウンロードしてお使い下さい。

FAX 用 (PDF ファイル) と e-mail 用 (MS word ファイル) の 2 種類ございます。

JAPIC ホームページ : <http://www.japic.or.jp/>

「医薬品類似名称検索システム 付加情報有料化のお知らせ」ページをご覧ください。

【お申し込み・お問い合わせ】

財団法人 日本医薬情報センター (JAPIC) 医薬品類似名称検索システム担当: 池上, 山内

TEL (03)5466-1825 FAX (03)5466-1816 e-mail : ruiji@japic.or.jp

『日本の医薬品 構造式集 2005 (検索 CD-ROM 付き)』

12月初旬に「日本の医薬品 構造式集 2005」を発行の予定です。構造式は、薬剤師、研究者、薬系大学生などの皆様にとっては非常に大きな不可欠な情報であり、昨年は「日本医薬品構造式集 2004」として発行いたしました。今回、改題し、内容を充実させ、また利便性を高めるために CD-ROM を付録として付けて発行することとなりました。詳細は次のとおりです。

内 容：国内で販売されている医療用医薬品のうち、一部の高分子製剤、低分子製剤などを除く約 1,300 成分の構造式を収載。各成分には構造式のほか、一般名・化学名・薬効分類・適応・CAS Registry number・分子量・分子式を記載。

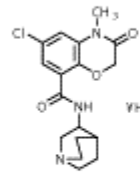
索 引：五十音（和文）とアルファベットの 2 種類。五十音索引では JAPIC 会員企業の製品名（約 3,800 件）による検索が可能。


CD-ROM：より詳細な情報を収載した検索 CD-ROM を付録として添付。複数の薬剤の構造式を同時に 1 画面に表示することができ、同一薬効群や類似作用をもつ医薬品などの構造式の違いを比較検証が可能。

予定価格：2,980 円（税込み）

問合せ・申込み先：事務局 業務担当 TEL.03-5466-1812

< 凡例と内容見本 >

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>塩酸アゼトロン azasetron hydrochlorid e (JAN) 5-HT_{2A}受容体拮抗型制吐剤 239</p> <p>【適応】抗悪性腫瘍剤（シスプラチン等）投与に伴う消化器症状（悪心、嘔吐）</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>YHCl</p> </div> <p>C₁₈H₂₀ClN₃O₂·HCl : 366.27</p> <p>(注) N-(1-azabicyclo[2.2.2]oct-3-yl)-6-chloro-4-methyl-3-oxo-3,4-dihydro-2H-1,4-benzoxazine-8-carboxamide hydrochloride</p> <p>CAS-141922-90-9</p>	<ul style="list-style-type: none"> — 医薬品一般名 — 一般名の欧文名にはその典拠を次の略号で付記した。なお優先順位は・JP・JAN・IN N — 薬効分類 — 適応 — 構造式 — 分子式：分子量 — 化学名 — CAS Registry number
---	---



『医療薬日本医薬品集 2005』(第 28 版)ならびに

『日本医薬品集 DB 2004 年 10 月版』の発行のお知らせ

10 月下旬に「医療薬日本医薬品集 2005」(第 28 版)〔書籍〕と「日本医薬品集 DB 2004 年 10 月版」〔CD-ROM〕を同時発行いたしました。なお、本年 9 月 30 日の抗菌薬再評価結果に基づく適応症名等の承認事項変更に対しましては、「医療薬日本医薬品集 2005」では追補版(無料)、「日本医薬品集 DB」では 2005 年 1 月版において対応させていただきます。

収載内容・価格は次のとおりです。

1) 「医療薬日本医薬品集 2005」(第 28 版)〔書籍〕

第 28 版では、収載医薬品についてより深く理解していただけるよう、各有効成分の構造式を薬効別索引に収載いたしました。上記以外にも本文・付録で各種改善を施しております。また、本年 9 月 30 日の抗菌薬再評価結果に基づく適応症名等の承認事項変更に対しては、追補版(無料)で対応させていただきますので、詳しくは本書添付の申込みハガキをご覧ください。

収録内容

- ・ 索引：五十音索引(欧文名も記載)、欧文索引、薬効別索引(構造式も記載)を設け、一般名、別名、商品名、薬効分類番号のいずれからも検索が可能
- ・ 本文：平成 16 年 8 月 30 日現在、当センターで添付文書などの資料を入手している医療用医薬品を成分別に 2,009 項目(内新規項目 21 項目)[平成 16 年 9 月 7 日薬価収載品を含む]収載。
- ・ 付録：保険適用上の取り扱いに関する通知一覧、投与期間に上限が設けられている医薬品等の本文内容を補助する各種資料を収載

2) 「日本医薬品集 DB 2004 年 10 月版」〔CD-ROM〕

前述の「医療薬日本医薬品集 2005」本文データを含む 4 冊の書籍データを収録し、網羅的に検索できるようにしております。(2005 年 1 月・4 月・7 月に発行するデータ更新版を特別価格で購入できる申込みハガキ付)

収録内容

- ・ 添付文書情報関係：「医療薬日本医薬品集 2005」(第 28 版)
「一般薬日本医薬品集 2004-05」(第 14 版)
+ 2004 年 5 月までの新薬・改訂情報
- ・ 製品情報関係：「保険薬事典平成 16 年 8 月総合版」+2004 年 10 月 1 日までの情報
- ・ 識別コード情報関係：「医療用医薬品識別ハンドブック 2005」〔2004 年 9 月までの情報〕

特 徴

2004 年 10 月版における新規項目

医薬品集項目名	製品名	製造会社
重碳酸リンゲル液	ピカーボン注	清水製薬(株)
塩酸インジセトロン	シンセロン錠8mg	日清キョーリン製薬(株)

3) 価格(税込)

書籍		¥24,675
CD-ROM	CD-ROM 単品	¥36,750
	書籍綴込ハガキ利用	¥24,150
書籍と CD-ROM のセット		¥44,100

(添付文書情報担当 TEL.03-5466-1825)

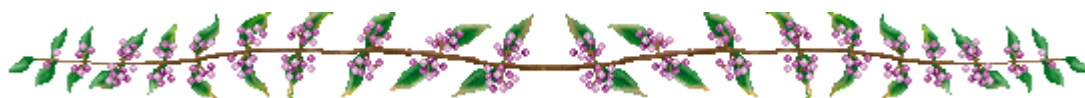
ホームページリニューアルのお知らせ (<http://www.japic.or.jp/>)

JAPIC ホームページが 10 月 1 日より新しくなりました。

トップページをシンプルで見やすいデザインに一新し、主要な項目にワンクリックでジャンプできるようなナビゲーションバー (ページ上部に設置) やサイトマップを新設し、使い勝手の良いホームページを意識して改良いたしました。また、息抜き・リフレッシュにと、薬用植物・身近な植物をターゲットとしたコラム「ガーデン」もスタートいたしました。

今後も、内容の充実を図るとともに、より多くの方にご利用いただけるようなホームページを目指していきたいと考えておりますので、宜しくお申し上げます。

なお、リニューアルに伴う URL の変更はございません。



休業のお知らせ

来る 12 月 1 日 (水) は、誠に勝手ながら創立記念日のため休業とさせていただきます。

トピックス

iyakuSearch 登録方法について (<http://database.japic.or.jp>)

医薬品情報データベース「iyakuSearch」の提供を平成 16 年 10 月 1 日から開始しております。

現在、会員の方々を含め約 700 名の方にご登録いただいております。維持会員の皆様には無料でお使いいただけますが、ご登録はお済みでしょうか。ご参考までに、下記にユーザ登録（新規お申し込み）の手順を図示いたしました。まだご登録をされていない方、また、関係部署等をご存知でない場合には是非お伝えいただき、ご検討の上、ご活用いただきますようご案内いたします。

< JAPIC Home Page > (<http://www.japic.or.jp>)



< iyakuSearch Top > (<http://database.japic.or.jp>)



< ログイン画面 >

< 検索画面 >

『新規会員登録は
こちら』を Click !



<登録画面 1>

<登録画面 1>で“iyaku Search 利用
約定書に同意しユーザ申し込みを行います。”にチェックしていただくと<登録
画面 2>に展開いたします。

<登録画面 2>

基本情報：

必ず全部ご記入下さい。その際、維持会員の方は、“住所区分”は必ず「会社」を選択してください。

勤務先情報：

必ずご記入ください。

請求情報：

基本情報と同じ場合は“請求書送付先”の「基本情報と同じ」にチェックを入れてください。

基本情報と違う場合は、必ず全部ご記入ください。その際、必ず請求先部署の承諾を取得の上ご記入下さい。

なお、iyakuSearch の公開に先立って 9 月 17 日～18 日開催の第 25 回日本臨床薬理学会年会、10 月 10 日～11 日開催の第 37 回日本薬剤師会学術大会、10 月 16 日～17 日開催の第 14 回日本医療薬学会年会で展示、新製品セミナーを実施しました。今後も 11 月 26 日～28 日開催の第 24 回医療情報学連合大会でも展示する予定です。ご参加の方は是非お立ち寄りください。

(技術渉外担当 TEL.03-5466-1832)

『JAPIC Daily Mail』サービスに関する 10 月からの変更事項等のご案内

「JAPIC Daily Mail」サービスに関連して以下の 3 点についてご案内・ご説明いたします。

1. 『iyakuSearch』提供開始に伴う JAPIC Daily Mail の送信システムの変更および「JDM 検索システム」について
2. 『プレ送信』サービスについて
3. 医薬品および医療用具の分類について

1. 『iyakuSearch』提供開始に伴う JAPIC Daily Mail の送信システムの変更および JDM 検索システムについて

10 月 1 日より医薬品情報データベース『iyakuSearch』の提供を開始しました。『iyakuSearch』では、医薬文献情報、学会演題情報に加えて、JAPIC Daily Mail(略称 JDM)で提供しております規制情報もデータベース化し、収載することとなりました。

JDM 検索システムは、JAPIC Daily Mail サービスご登録者(メール受信者)のみ、無料でお使いいただけます。また、本データベース化に伴い、送信システムを新たに開発しました結果、体裁、該当文書リンクの示し方等、いくつか変更いたしました。なお、JDM 検索システムは、現在過去データの搭載作業を行っており、10 月末からの正式稼働となります。2004 年 1 月からのデータを 2 回に分けて搭載(10 月末、11 月末)していく予定であります。

『iyakuSearch』において、文献および学会情報の詳細表示、JDM 検索システムのご利用には、ユーザ ID およびパスワードが必要となります。JAPIC Daily Mail サービスご登録者には、9 月末よりユーザ ID およびパスワードをメールにて交付いたしましたので、ご利用ください。

JDM 検索システムの検索方法を以下にご説明いたします。

<JDM 検索システムの使い方>

1. IyakuSearch トップページ (<http://database.japic.or.jp/>) の「規制措置情報」をクリックすると、ログインページが開きます。交付されている ID とパスワードを入力しログインします。
2. 以下の検索画面が表示されます。

3. JDM データベースは基本的には、フリーワード検索かつ全文検索です ()。また、JAPIC Daily Mail 提供日 () 発信国 () 情報種別 () で絞り込めます。発信国および情報種別はプルダウン形式で指定します。

4. Fluvirin (全文検索) 10月7日~10月19日 (JAPIC Daily Mail 提供日) アメリカ (発信国) 医薬品 (情報種別) で検索した例です。左の画面が検索結果表示画面です。

検索結果表示画面では、記事 ID、情報発信日、情報種別、発信国・発信機関、情報タイトルが表示されます。 印の必要な記事にチェックをし、概要表示（ 印）をクリックしますと、右の概要表示画面が開かれます。概要表示画面では、検索結果表示画面の表示項目に加えて、記事の日本語概要、該当文書および掲載サイトへのリンクが表示されます。

2. 『プレ送信』サービスについて

本年 7 月 20 日より JAPIC Daily Mail の『プレ送信』を試験的に送信しております。『プレ送信』の開始から現在まで様々なご意見をいただきました。これらご意見を検討した結果、iyakuSearch の JDM データベース内に『今日のトピック（仮）』として、その日に掲載される記事を掲載する機能を追加し、情報を早く入手したい方にアクセスしていただけるよう、現在機能を作成中です。完成までは現行のまま『プレ送信』を送信する予定であります。

3. 医薬品および医療用具の分類について

JAPIC Daily Mail の送信文では、各ホームページからの更新情報について、発信機関（例；米 FDA）ごとに各記事をまとめておりましたが、新送信システム導入の 10 月 7 日より、医薬品または医療用具に関する記事を判断しやすいように、記事各々に情報種別として記事の一行目に、『医薬品』、『医療用具』、『その他』と分類して掲載するようにしました。この分類は、前頁の JDM 検索システムの使い方でも説明しました、検索画面 の情報種別に反映されており、例えば医療用具に関する情報を絞り込む事が可能です。

最後にこの場をおかりいたしまして、新送信システム導入に伴い、一部のユーザ様へのメール送信において、文字化け等の不具合がございましたことを、深くお詫び申し上げます。それと共に、これらの解決のためにご協力いただきましたユーザ様に厚く御礼申し上げます。

今後とも、JAPIC Daily Mail 並びに iyakuSearch の JDM 検索システムをよろしくお願い致します。

（医薬文献情報担当 鈴木克枝）



図書館だより No.173

◀ 新着資料案内 - 平成 16 年 9 月 10 日 ~ 平成 16 年 10 月 8 日受け入れ ▶

この情報は JAPIC ホームページ <<http://www.japic.or.jp>>でもご覧頂けます。

お問い合わせは図書館までお願いします。複写をご希望の方は所定の申込用紙でお申し込み下さい。

電話番号 03-5466-1827 Fax No. 03-5466-1818

配列は書名のアルファベット順

書名 著者名	出版社名	出版年月	ページ	定価
British National Formulary No.48 British Medical Association, Royal Pharmaceutical Society of Great Britain イギリスの薬価付き医療用医薬品集	Pharmaceutical Press(GBR)	2004年 9月	902p	¥5,990
治験医歯薬情報 No.34 2003年版 医事出版社	医事出版社	2004年 9月	551p	¥28,500
治療薬情報集 2005 - 薬効別 要約と詳細 - 高橋隆一 他監修	じほう	2004年 9月	2,567p	¥12,600
中部病院情報 2004年版 第21版 医事日報病院情報編集部	医事日報	2004年 9月	838p	¥18,000
DEF 2004/05 33ed. Dicionario de especialidades farmaceuticas J.M.S.Melo ブラジルの医薬品集。医療薬、一般薬、医療用具が含まれる	Editora de publicacoes Cientificas	2004年	930p	¥2,600
Deutsches Arzneibuch 加除式「ドイツ薬局方」(略称; DAB)。収載モノグラフ数105品目	Govi-Verlag Pharmazeutischer Verlag GmbH	2004年		
Deutscher Arzneimittel-Codex ABDA-Bundesvereinigung Deutscher Apothekerverbände 加除去の「ドイツ薬局方外規格」(DAC)。収載モノグラフ数279品目	Govi-Verlag Pharmazeutischer Verlag GmbH Apotheker-Verlag	2004年		

書名 著者名	出版社名	出版年月	ページ	定価
エビデンスに基づいた癌化学療法ハンドブック 有吉 寛 監修	メディカルレビュー社	2004年 8月	333p	¥4,935
皮膚疾患治療ガイドライン 医薬品・治療研究会医薬ビジランス研 究所 編訳	医薬ビジランスセンター	2004年 1月	375p	¥3,700
法定色素ハンドブック 改訂版 日本化粧品工業連合会 編	薬事日報社	2004年 9月	507p	¥9,450
医療の質マネジメントシステム - 医療機関における ISO 9001の活用 上原 鳴夫 他	日本規格協会	2003年 10月	333p	¥2,730
医療用具承認便覧平成16年版 薬務公報社	薬務公報社	2004年 9月	148p	¥4,200
感染症 竹田 美文、木村 哲 編	朝倉書店	2004年 9月	443p	¥14,700
Master on Therapeutic Drugs 8th ed.(2002) Usama Tharwat Latif, Henein Wli Henein エジプトの薬価表	Nasr Modern Bookshop	2002年	191p	
MIMS Desk Reference 2004 Prof Jacques Snyman ed. 南アフリカの医薬品集。会社別に配列されている	MIMS a Division of Johnnic Publishing	2004年	1,536p	¥13,300
MIMS Thailand Volume32 Number1 2003 Leong Wai Fun コンパクトに編集されたタイの価格付医薬品集。年3回発行	MediMedia(Thailand) Ltd	2003年	436p	
(National Formulary) National Organization for Medicines ギリシャの「National Formulary」。薬効別に配列されている	National Organization for Medicines	2003年	734p	¥1,980
Philippine Pharmacopeia 1(PP1) Republic of the Philippines, Department of Health, Bureau of Food and Drugs 「フィリピン薬局方」の初版	Republic of the Philippines, Department		360p	

書名 著者名	出版社名	出版年月	ページ	定価
ポケット判治療薬Up-to-Date 2004 松澤佑次 他編	メディカルレビュー社	2004年 1月	905p	¥3,780
Reimbursed Medicinal Products List 1st Ed. 2004 National Organization for Medicines ギリシャの薬価基準収載医薬品集。日本の「薬価基準 点数早見表」に該当	National Organization for Medicines	2004年	334p	¥13,200
新薬承認情報集 平成16年 No.2 塩酸ラロキシフェン[エピスタ錠60mg] 日本薬剤師研修センター	日本薬剤師研修センター	2004年 7月	764p	¥10,500
新薬承認情報集 平成16年 No.7 ミチグリニドカルシウム水和物[グルファスト錠5mg,10mg (平成16年1月承認)] 日本薬剤師研修センター	日本薬剤師研修センター	2004年 7月	823p	¥6,825
図書館調査研究誌 No.2 電子情報環境下における科学技術情報の蓄積・流通の在り方に関する調査研究(平成15年度調査研究) 国立国会図書館関西館事業部図書館協力課編	国立国会図書館関西館事業部図書館協力課	2004年 7月	107p	
糖尿病UP-DATE 賢島セミナー-20 選択肢が広がる薬の匙加減 坂本 信夫 他編	医歯薬出版	2004年 9月	265p	¥3,780
わかりやすい血液透析とCAPD 改訂第4版 多川 斉	日本メディカルセンター	2004年 6月	155p	¥1,470
ワクチンの事典 日本ワクチン学会 編	朝倉書店	2004年 9月	315p	¥10,500
薬事・食品衛生審議会薬事分科会 平成16年9月30日新聞発表用資料 薬事・食品衛生審議会薬事分科会	厚生労働省医薬食品局	2004年 9月	131p	
薬剤識別コード事典 平成16年追補版 高杉益充 監修	医薬ジャーナル社	2004年 9月	20p	¥800
全国薬学教員名簿 平成16年8月版 薬学教育協議会 編	じほう	2004年 8月	259p	¥5,250

月間のうごき

今年は大変台風の上陸が多く、すでに最多上陸記録を更新したようです。10月10日、11日には青森市で「第37回日本薬剤師会学術大会」が開催されましたが、参加者は台風の影響を受けて、搭乗予定の飛行機が欠航し、急遽新幹線に変更したりと大変な思いをされたようです。

10月1日から、医薬品情報データベース「iyakuSearch」の提供を開始し、第37回日本薬剤師会学術大会では、「iyakuSearch」を展示ご紹介いたしました。また、10月16日、17日は幕張で開催された「第14回日本医療薬学会年会」でも展示し、新製品セミナーでも発表ご紹介いたしました。JAPIC 維持会員の皆様には無料で提供するものです。ぜひご利用下さい。

「iyakuSearch」では、海外を中心とした規制措置情報「JAPIC Daily Mail」もデータベース化し提供いたします。「JAPIC Daily Mail」サービスご利用者に限定したのですが、2004年1月からのデータを順次搭載の予定です。

10月下旬には「医療薬日本医薬品集 2005」(第28版)〔書籍〕と「日本医薬品集 DB 2004年10月版」〔CD-ROM〕を同時発行いたしました。「医療薬日本医薬品集 2005」には、かねてよりご要望のありました構造式を薬効別索引に収載いたしました。また、付録には「保険適用上の取り扱いに関する通知一覧」、「投与期間に上限が設けられている医薬品」等の本文内容を補助する各種資料を収載いたしました。2004年9月30日の通知による抗菌薬の菌種名・適応症名変更への対応として追補版(無料)を2004年12月に発刊の予定です。

医療事故防止の観点から医薬品の名称類似性が取りざたされております。当センターでは昨年、名称の類似性について客観的なチェックができるシステムの検討としてパイロットスタディを行いました。パイロットスタディ後もパイロットスタディと同じ検索サービスを無料で継続提供していましたが、このたび現行サービスを維持するため、「医薬品類似名称検索システム」のJAPIC作成付加情報について、平成16年11月1日から暫定的に有料化して提供させていただきます。ご理解いただきますようお願いいたします。

11月から12月にかけて、「第6回JAPICユーザー会」が大阪(11月26日)と東京(12月3日)で開催されます。本号で詳細なご案内をしております。多くの皆様にご参加いただきますようお願い致します。

(医薬文献情報担当(海外)/添付文書情報担当部長 秋野 けい子)

10月の情報提供一覧

- ・平成16年10月1日から10月31日の期間に提供しました情報は次の通りです。
- ・出版物がお手許に届いていない場合は、
当センター事務局業務担当（TEL.03-5466-1812）にお問い合わせ下さい。

情報提供一覧	発行日等
<出版物等>	
1. 「医薬関連情報」10月号	10月29日
2. 「Regulations View」No.110	10月29日
3. 「JAPIC CONTENTS」No.1626～1629	毎週月曜日
4. 「日本医薬文献抄録集」2004シリーズ版（8）	10月末予定
5. 「医薬品副作用文献速報」11月号	10月末予定
6. 「ADVICE」（医薬品副作用文献情報集）2004 []	10月30日
7. 「JAPIC NEWS」No.247	10月29日
8. 「日本医薬品集2005」（第28版）「日本医薬品集DB2004」10月版	10月25日
<速報サービス>	
1. 「医薬関連情報 速報FAXサービス」No.457～460	毎週
2. 「医薬文献・学会情報速報サービス（JAPIC-Qサービス）」	毎週
3. 「JAPIC-Q Plus サービス」	毎月第一水曜日
4. 「外国政府等の医薬品・医療用具の安全性に関する措置情報サービス（JAPIC Daily Mail）」No.834～853	毎日
5. 「感染症情報（JAPIC Daily Mail Plus）」No.60～63	毎週月曜日
6. 「PubMed 代行検索サービス」	毎月第一水曜日

<p style="text-align: center;">データベース一覧</p> <p style="text-align: center;">1～7のデータベースのメンテナンス状況はJIPホームページ (http://Infostream.jp.co.jp/)でもご覧いただけます。</p>	<p style="text-align: center;">更新日</p>
<p><JIP e-InfoStream から提供></p>	
<p>1. 「JAPICDOC 速報版 (日本医薬文献抄録速報版)」</p>	<p style="text-align: center;">10月14日</p>
<p>2. 「JAPICDOC (日本医薬文献抄録)」</p>	<p style="text-align: center;">10月14日</p>
<p>3. 「ADVISE (医薬品副作用文献情報)」</p>	<p style="text-align: center;">10月14日</p>
<p>4. 「MMPLAN (学会開催予定)」</p>	<p style="text-align: center;">10月18日</p>
<p>5. 「SOCIE (医薬関連学会演題情報)」</p>	<p style="text-align: center;">10月14日</p>
<p>6. 「NewPINS (添付文書情報)」(月2回更新)</p>	<p style="text-align: center;">10月5日 10月18日</p>
<p>7. 「SHOUNIN (承認品目情報)」</p>	<p style="text-align: center;">10月8日</p>
<p><JST JOIS から提供></p>	
<p>「JAPICDOC (日本医薬文献抄録)」</p>	<p style="text-align: center;">10月中旬</p>

当センターが提供する情報を使用する場合は、著作権の問題がありますので、その都度事前に当センター事務局業務担当 (TEL.03-5466-1812) を通じて許諾を得てください。

===== 財団法人 日本医薬情報センター (JAPIC)
(<http://www.japic.or.jp/>)

禁無断転載
JAPIC NEWS 1984.4.27 No.1 発行
2004.10.29(毎月 1 回最終金曜日)発行

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2-12-15
長井記念館 3 階
TEL 03(5466)1811 FAX 03(5466)1814